

— SLIDE CREATION GUIDE

伝わるスライド 制作の極意

初心者でもすぐに実践できる、
伝わるスライド制作の基本原則を解説します。

聞き手の心を動かし、行動を促すための4つの鉄則。
情報の整理から視覚設計、具体的なプロセスまで網羅。



なぜスライドデザインが重要なのか？



スライドは単なる資料ではなく、プレゼンターの「トークの伴走者」であるべきです。

なぜスライドのデザインや構成にこだわる必要があるのか、その本質的な目的を理解します。

THEME スライドの役割を再定義する

結論から伝える「PREP法」の活用

結論から話す「PREP法」を用いることで、
聞き手の理解スピードを劇的に高めます。

論理的な構成のフレームワーク

P
Point

結論

最初に要点を明確に伝えます。聞き手は「何の話か」を即座に把握できます。

R
Reason

理由

なぜその結論に至ったのか、論理的な根拠を示します。説得力の土台となります。

E
Example

具体例

事例やデータを提示し、抽象的な話を具体化します。納得感を醸成します。

P
Point

結論（再掲）

最後にもう一度結論を繰り返すことで、記憶への定着と行動を促します。

● Point（結論） ● Reason（理由） ● Example（具体例） ● Point（結論）

ZEN CLARITY ARCHIVE

1スライド・1メッセージの原則

1枚のスライドに込めるメッセージは1つだけに絞り、情報の詰め込みを防ぎます。

聞き手が瞬時に内容を理解できる「1スライド・1メッセージ」の重要性を解説します。

瞬時の理解を助けるシンプルさ



「情報の削ぎ落とし」が理解を助ける

CORE PHILOSOPHY

ページを分割して
密度を下げるのが
正解です。

情報量が多い場合は、

1枚あたりの負荷を最小限に抑えます。

• Slide Overview

スライド枚数が増えることを恐れず、聞き手の負担を減らすためのページ分割術を学びます。

Theme Context

パンフレットではなく「トークの伴走者」としての在り方を追求するデザイン。

01

ZEN CLARITY
ARCHIVE SYSTEM

「読まれない」ことを前提に設計する

聞き手は文字を「読まない」という前提に立ち、直感的に伝わる設計を目指します。

私たちの脳は複雑な情報を前にすると、無意識に「読む」ことを拒絶します。まずは視覚的なフックを作り、自然と視線が流れる道筋を用意すること。それがZenの視覚設計です。

👁️ スライドの概要

斜め読みでも内容が把握できるように、視覚的なプライオリティをつける重要性を解説します。

THEME DESCRIPTION

視覚設計の出発点

ZEN

視線を誘導する強調のテクニック

CORE IDEA

「拾い読み」を 可能にするデザイン。

重要なキーワードを
太字や色変更で強調し、
視線の誘導をコントロールします。

— スライドの概要

読み手はすべての文字を読みません。特定の要素に「違和感」を与えることで、瞬時に情報を脳へ届けます。

一目で要点がわかる配置

- 情報を階層化し、**視覚的な優先順位**を明確にします。
- 余白（ホワイトスペース）を「**情報の境界線**」として活用します。
- 色のコントラストを使い、**論理的なアクセント**を配置します。

色とフォントの適切な選び方

— THEME: シンプルさが生む視認性

使用する色は
3色程度に絞り、
視認性の高いフォントを
選びます。

シンプルさは「信頼」の土台となります。

• 学習の目的

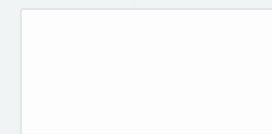
シンプルでプロフェッショナルな印象を与えるための、色とフォントの選択基準を学びます。



PRIMARY



ACCENT



BASE

RECOMMENDED FONT

Noto Sans Japanese

STANDARD WEIGHTS

400 (Regular) / 700 (Bold)

具体例が印象を決定づける

抽象的な説明を避け、具体的な事例を盛り込むことで聞き手の印象に深く残します。

● VAGUE / 曖昧

「業務の効率化を実現しました」

● CONCRETE / 具体

「手作業で行っていたデータ入力を自動化し、**月100時間の削減**に成功しました」

具体性が生む納得感

「効率化」などの曖昧な言葉を、実際の成功事例に置き換えて説明する方法を解説します。



定量的な数値が持つ説得力

CORE IDEA

「30分が5分に短縮」など、
定量的な数値を示すことで説
得力を最大化します。

OVERVIEW

意思決定者に刺さる、数字を用いた具体的な成果報告
の書き方を学びます。

数字で示す圧倒的な説得力



ZEN CLARITY ARCHIVE / DATA VISUALIZATION

いきなりデザインを始めない

テキストで構成を固めることが 効率化の鍵です

いきなりPowerPointを開いてスライドを作り始めるのではなく、まずは伝えたい情報の優先順位と論理構成を言語化しましょう。

THEME | 効率的な制作ワークフロー

STRATEGY FIRST

— プロセスの重要性

- ① デザインに迷う時間を最小限に抑える
- ② 伝えるべき情報の骨組みを明確にする
- ③ 修正コストを大幅に削減する

"デザインは装飾ではなく、情報の設計である。"

構成案（アウトライン）の重要性

THE CORE IDEA

アウトラインを先に作ることで、
論理の破綻を防ぎ、
作業時間を短縮できます。

METHODOLOGY

テキストベースで全体の流れを確認し、修正コストを最小限に抑える手法を学びます。

論理構造の事前確認

章立てを絞って全体像を見せる

3〜

4

Chapters

黄金の構成比

全体の章立てを3〜4つに絞り込むことで、聞き手が全体像を把握しやすくなります。

STRATEGY OVERVIEW

情報を整理し、セクションを適切に分けることで、プレゼンのリズムを整える方法を解説します。過剰な情報は認知負荷を高めますが、適切な「絞り込み」は聞き手への配慮となります。

Optimal Structure Balance

生成AIをパートナーとして活用する

CONCEPT

ChatGPT等の生成AIを活用し、構成案の作成やキャッチコピーのアイデア出しを効率化します。

制作の各プロセスにおいてAIを「思考の壁打ち相手」として迎えることで、クリエイティビティの質と速度を同時に向上させます。

01 活用の核心

AIへの具体的な指示出し（プロンプト）のコツを学び、制作のパートナーとして活用します。

• "AIを味方につける制作術"

STRATEGIC PARTNERSHIP APPROACH

FOCUS

Efficiency × Quality

プレゼンの「緩急」とスライドの連動

話すテンポに合わせてスライドを切り替え、情報の「緩急」をつけることが飽きさせないコツです。

05
SEC

瞬時のインパクト

視覚的なキーワードやイメージを提示し、リズムを加速させるスライド。聴衆の注意をリフレッシュさせます。

QUICK

120
SEC

深い納得感

論理的な構造や詳細データを語り、プレゼンの核を伝えるスライド。じっくりと時間をかけて理解を促します。

DEEP DIVE

QUICK

CONCLUSION

まとめ： 伝わるスライドで 行動を促す

これらのポイントを意識することで、聞き手に分かりやすく、行動を促すスライドが作成できます。

01

情報整理

02

視覚設計

03

具体性

04

プロセス

—— 実践に向けての一步を踏み出しましょう

END